

「今後も支援継続を」

ネパールで
医療活動

山本教授(長崎大)帰国会見

ネパール大地震の被災地での医療支援から帰国した長崎大熱帯医学研究所の山本太郎教授(51)が12日、同大で記者会見し、現地での活動報告をした。現地のネパール人医師ら働きやすいように主に

後方支援に力を入れたことを説明し、「これからも切れ目のない復興支援をしていくことが重要だ」と強調した。

山本教授は国際医療NGO「AMDA(アムダ)」(岡山市)の

派遣チームの一員として1~4日、カトマンズ北東の山間部にある屋外テントの医療所で活動した。被災による骨折や切り傷などのけが人が多い中、産気づいて出産した女性もいたという。「現地の人

が最大限に力を発揮できるように」と、医療所内の動線を確保できるようにベッドの配置を考えた。水の消毒や廃棄物の処理など衛生面での教育に取り組んだという。

今後については、「ネパールが何を必要としているかを見極めた上で、支援を続けていくべきだ」と語った。

【大平明日香】



ネパールでの医療支援について報告する山本教授